

秋季 避難訓練

“私の生活圏内での
津波予想は？”

～防災マップを見ながら学習する様子～



令和4年10月31日（月）の3・4校時を使い、地震を想定した避難訓練を実施しました。地震発生のお知らせを受け机の下に身を隠し、揺れが収まった段階で戸外に避難しました。外に出たら建物からなるべく離れて移動することや、机の下に隠れている間は机の脚を両手でつかみ机が動かないように注意することなどを学びました。避難はスムーズに行われましたが、実際の場面でも落ち着いて行動できるようにするためにも訓練は欠かせないものだと実感しました。



訓練の最後に教頭先生より講評をいただいたのち、生徒たちは体育館に移動し防災講話を受講しました。今年度は文部科学省委託の学校安全実践力向上サポート事業の支援を受け、山形大学地域教育文化学部の講師で災害環境科学研究センターで活躍される熊谷誠先生をお招きして、～庄内で起きる地震と津波のリスク～と題した講演をしていただきました。

講演の中で、当地区の日本海沖にはわずか数十キロのところに断層があり、そこが震源となった場合、地震発生からわずか15分前後で津波が到達することが警告されました。迅速な家族の安否確認と同時に、速やかに垂直避難する必要があるため、いかに日頃からの事前準備と心構えが大切であることを痛感させられる内容でした。

講話の後半は、実際に自分の状況に照らし合わせて具体的な対応策を考える時間となりました。津波の防災マップを確認したり、自分の部屋の間取りを書き出しながら揺れが来た時の安全性について検討する活動をとおして、生徒たちは災害に立ち向かう強い意識を育むことができたようです。

